

「無名の戦時中の女性の像 -平和にとっての女性の必要性-」

2021年11月11日、ルーヴェン市は、ルーヴェン平和運動とルーヴェン・カトリック大学からの贈り物である無名の戦時中の女性の像を除幕式を行う。この像は、ベネーデンプレイン-ジャンヌ・ドゥヴォスプレイン (Benedenenplein - Jeanne Devosplein) に設置される。

倒された女性: 無名の戦時中の女性のイメージは、戦争の苦しみを女性の視点から表している。女性はそれぞれに、戦争や紛争でひどく苦しんでいる。最愛の人を失うだけでなく、集団暴力などの被害者になることも多い。近年の歴史でも、女性の強姦は、アフリカ、旧ユーゴスラビア、イラク、シリアなどで戦争の武器として使用されてきた...

座っている女性: 無名の戦時中の女性のイメージは、戦争や紛争の状況下での女性の戦争への献身についても暗示している。女性たちは、家族や、戦時中の苦しみで傷ついた人（肉体的にも精神的にも）を含めたコミュニティの世話をし続けている。

立っている女性: この像は、「女性の力は平和の力」というスローガンを含む国連安全保障理事会決議 1325 で強調されているように、持続可能な平和構築における女性の積極的な参画を呼びかけている。この手招きのジェスチャーは、女性の状況や可能性（家庭、近隣、社会、政治）に応じて、あらゆるレベルで声を上げ、平和のために働こうと呼びかけている。多くの人と協力し、女性は資源利用に関する政治的意思決定影響を与えることができる。例えば、軍国主義から非暴力的な紛争管理へのシフトを遂行し、社会で一番弱い立場にある人々のニーズに答えることも可能だ。

このために**白いポピー**は戦争記念のシンボルである赤いポピーの隣に置かれている。どちらのポピーもルーベン平和運動のロゴマークに含まれている。毎年11月11日にルーベン平和運動は、女性が平和のために積極的に活動することで、多大な力を身につけることができるということを強調したいと考えている。

ルーヴェンは、**平和都市**としての立場を段々と示している。ルーヴェン平和運動が、無名の戦時中の女性像の構想をルーヴェン市に提案した際には、とても熱心な反応があり、2020年から2025年までの計画にこのプロジェクトを採用した。また、ルーヴェン・カトリック大学は、大きな信念を持ってこの発議を支持している。

ルーヴェンは170以上の国籍を持つ都市である。紛争地域から来た多くの女性、移住者、難民、留学生、そしてルーヴェン周辺に住んでいる人々は、この像の中に自分を見出してくれるだろう。この像は、家族の有無に関わらず、女性たちが歩んできた長い道のりと、乗り越えてきた差別撤廃への困難な課程への感謝と敬意を表すものである。この像は、差別撤廃と彼女たちのトラウマの克服に貢献することができるだろう。

この像の記念としての意味合いは一義的ではなく、戦争への歴史的な言及の方が大きい。ルーヴェンには、戦争や暴力に対する抵抗運動に積極的に参加してきた女性たちの豊かな歴史があり、これらの無名で活動的な女性たちは、この都市に居場所を見つけるに値する。

無名の戦時中の女性像を制作した**彫刻家**は、平和主義のフェミニストであり、弁護士、彫刻家、画家でもあるリリアン・ヴァルスイス(Liliane Versluys)である。彼女は、不正に反対し、言葉では言い表せないことをイメージの力で明らかにすることで、より良い世界に貢献したいと考えてる。

設置は14時にルーヴェンのベネーデンプレイン-ジャンヌ・ドゥヴォスプレイン鉄道駅の地下道の裏手で行われる予定だ。その後、参加者は近くのユースホステル「ブラウピュット」(Blauwput)に招待され、追加の活動が行われる。